

令和7年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち）	並	並
	紋枯病	並	やや多
水稲共通	ヒメトビウンカ	やや多	やや多
	縞葉枯病	並	並
	ツマグロヨコバイ	少	やや少
	セジロウンカ	やや少	並
	トビイロウンカ	並	並
	コブノメイガ	並	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病	やや少	やや少
	炭疽病	並	並
	ハダニ類	やや少	並
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	かいよう病	並	並
	黒点病	やや多	やや多
	ミカンハダニ	少	少
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少
びわ	がんしゅ病	やや多	やや多
	灰斑病	少	少
	ナシヒメシンクイ	並	並
果樹共通	カメムシ類	やや少	やや少
茶	炭疽病	並	並
	チャノキイロアザミウマ	少	少
	チャノコカクモンハマキ	やや多	やや多
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	やや少	やや少
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	クワシロカイガラムシ	少	少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（28筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.7%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（0.0%）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる）。好適条件等の詳細は病虫害防除所ホームページを参照。

月日	鰐浦	巖原	芦辺	平戸	松浦	佐世保	西海	有川	長崎	島原	福江	口之津	脇岬
6/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/3	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	1	-
6/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/8	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
6/9	-	-	-	4	●	●	●	-	-	4	●	-	-
6/10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/11	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-
6/12	-	-	-	4	4	●	●	-	●	-	●	-	-
6/13	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
6/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/15	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/16	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

発生指標	?:判定 不能	-:好適 条件なし	1:準好 適条件1	2:準好 適条件2	3:準好 適条件3	4:準好 適条件4	●:好適 条件
------	------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	------------

2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（28筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発病株率0.3%）。

ウ 6月10日時点での早期水稻生育状況調査（諫早市）によると、平年よりも茎数が多い。

エ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

本病は上位葉が発病すると収量低下などの被害が生じるので、特に生育が旺盛で過繁茂となっている圃場など上位葉への進展が懸念される圃場では薬剤散布を徹底する。薬剤散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。

水稻共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報内容：発生程度 ヒメトビウンカ やや多
縞葉枯病 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（28筆）の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.2頭（0.1頭）、発生圃場率は71.4%（46.8%）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は2.4頭（0.5頭）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

ウ 本年5月の小麦圃場及びイネ科雑草地（12地点、1地点あたり概ね5圃場）においてヒメトビウンカの生息量調査を行った結果、捕虫網による20回すくいとり当たり頭数は6.2頭（平年 6.1頭）と平年並であり（図）、若・中齢幼虫主体であった。

エ 向こう1か月の気温はかなり高く、降水量は平年並かやや少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ウンカ類に効果の高い箱施薬の施用を徹底する。

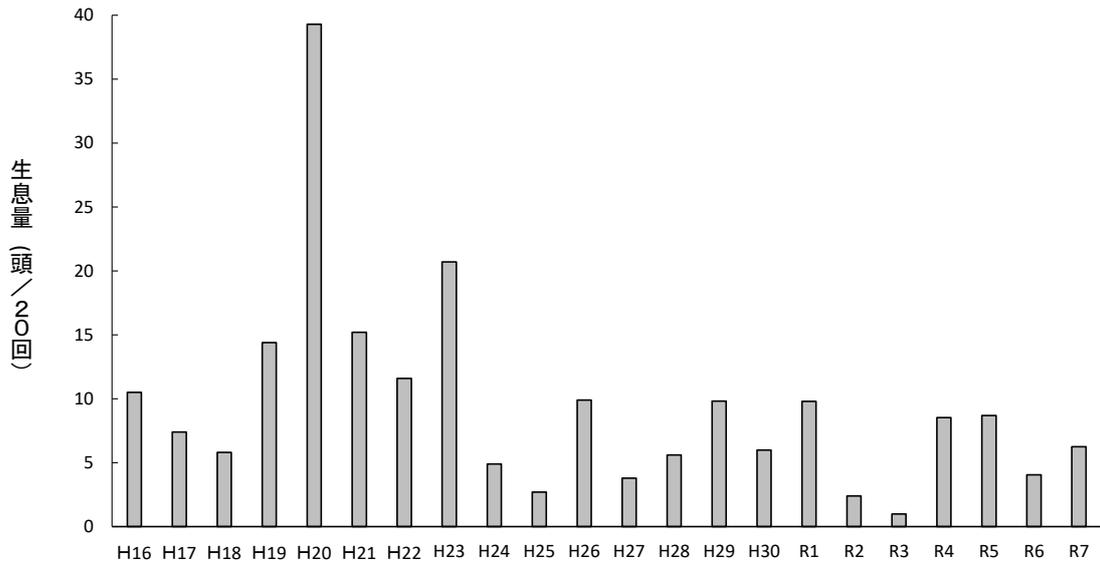


図 小麦圃場及びイネ科雑草地におけるヒメビウンカ(第1世代)の生息量の推移

2. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(28筆)の結果、早期水稲における株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は10.7%(34.6%)であった。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲における株当たり虫数は0.4頭(2.3頭)であった。

ウ 向こう1か月の気温はかなり高く、降水量は平年並かやや少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

3. セジロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月20日にネットトラップ(諫早市)において初誘殺を確認した。

イ 6月前期の巡回調査(28筆)の結果、早期水稲における株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は17.9%(32.7%)であった。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲における株当たり虫数は1.5頭(0.8頭)であった。

エ 向こう1か月の気温はかなり高く、降水量は平年並かやや少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

4. トビイロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(28筆)の結果、早期水稲における発生を認めなかった(過去10か年平均 株当たり虫数0.0頭、発生圃場率0.5%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲における発生を認めなかった(0.0頭)。

ウ 6月17日時点では、ネットトラップ(諫早市)及び予察灯(諫早市)において誘殺は確認されていない。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病虫害防除所ホームページ参照)。

5. コブノメイガ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月10日にフェロモントラップ（諫早市）において初誘殺を確認した。
 - イ 6月前期の巡回調査（28筆）の結果、早期水稲における食害株の発生は認めなかった（発生圃場率1.3%、食害株率0.0%）。10㎡当たり成虫数は0.0頭（0.0頭）であった。
 - ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲における食害株の発生は認めなかった（0.1%）。
 - エ 向こう1か月の気温はかなり高く、降水量は平年並かやや少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
今後の飛来状況に注意する（病害虫防除所ホームページ参照）。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
6月前期の巡回調査（29筆）の結果、発病株率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は6.9%（4.8%）であった。

2. 炭疽病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月前期の巡回調査（29筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
 - イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実にを行う。また、育苗床及び周囲の除草を徹底するなど、環境整備に努める。また、雨よけ育苗施設を有する圃場は積極的に被覆を行い、降雨等による病原菌の跳ね上がりを防止する。
 - イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗も処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置せず適切に処分する。
 - ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤をローテーション散布するが、降雨が予想される場合は、降雨前の防除に努める。

3. ハダニ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月前期の巡回調査（29筆）の結果、寄生株率は3.6%（9.0%）、発生圃場率は20.7%（47.7%）であった。
 - イ 向こう1か月の気温はかなり高く、降水量は平年並かやや少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 土着天敵の活動が活発になる時期であり、天敵への影響が大きい薬剤の使用は避け、気門封鎖剤等の天敵に影響の少ない薬剤を積極的に使用する。なお、気門封鎖剤は卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。
 - イ 薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
 - ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和7年長崎県病害虫防除基準

P182～183の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、
薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

エ 親株切り離し後は、苗の間隔を開け薬剤防除を徹底する。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（10筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×
22.5cm白色板に5回×10か所）は1.6頭（16.3頭）、発生圃場率は
60.0%（66.1%）であった。

イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.1%（0.3%）、葉で
の発生圃場率は11.1%（16.3%）、果実では発生を認めなかった（発病果
率0.0%、発生圃場率1.0%）。

2. 黒点病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病果率は0.1%（発生を認めな
い）、発生圃場率は2.8%（発生を認めない）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 今後の気象（降雨）の推移に留意し、防除適期を逸しないよう努める。

イ 枯れ枝が伝染源となるので、管理作業と併せて剪除する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は0.4%（6.3%）、発生
圃場率は11.1%（35.4%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病虫害防除基準
P318～320（みかん）およびP324～326（かんきつ）の「作用機
構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（36筆）の結果、果頂部、果梗部ともに被害の発生を認
めなかった（果梗部：被害果率0.0%、発生圃場率0.3%、果頂部：過去10
か年平均 被害果率0.0%、発生圃場率0.3%）。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並～やや少なく推移してい
る（図）。

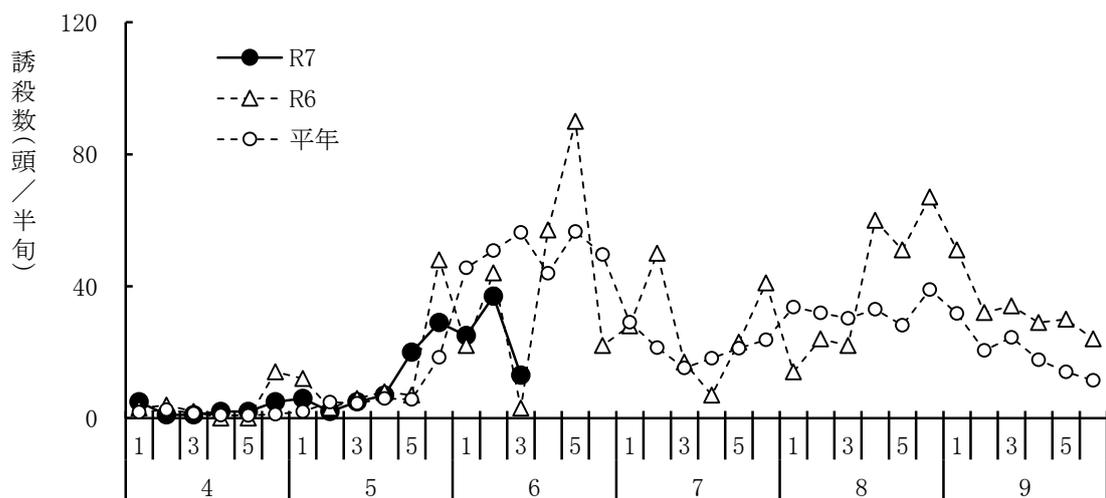


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は、平年並である(表)。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日
(令和7年6月16日時点)

地点	長崎	佐世保	口之津	平戸
第3世代	6/28	6/29	6/30	7/11
〃 (平年)	6/29	7/1	7/1	7/12
〃 (前年)	6/19	6/20	6/21	7/3
第4世代	7/16	7/18	7/18	7/30
〃 (平年)	7/18	7/20	7/19	7/31
〃 (前年)	7/8	7/9	7/10	7/22

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。

なお、積算には令和7年6月15日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。

また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお、発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容: 発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.7%(0.2%)、発生圃場率は40.0%(8.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア せん定後にカスガマイシン・銅水和剤を散布し、感染を防止する。

イ ナシヒメシクイの食入痕からも感染するので、本虫の防除を徹底する。

2. 灰斑病

(1) 予報内容: 発生程度 少

(2) 予報の根拠

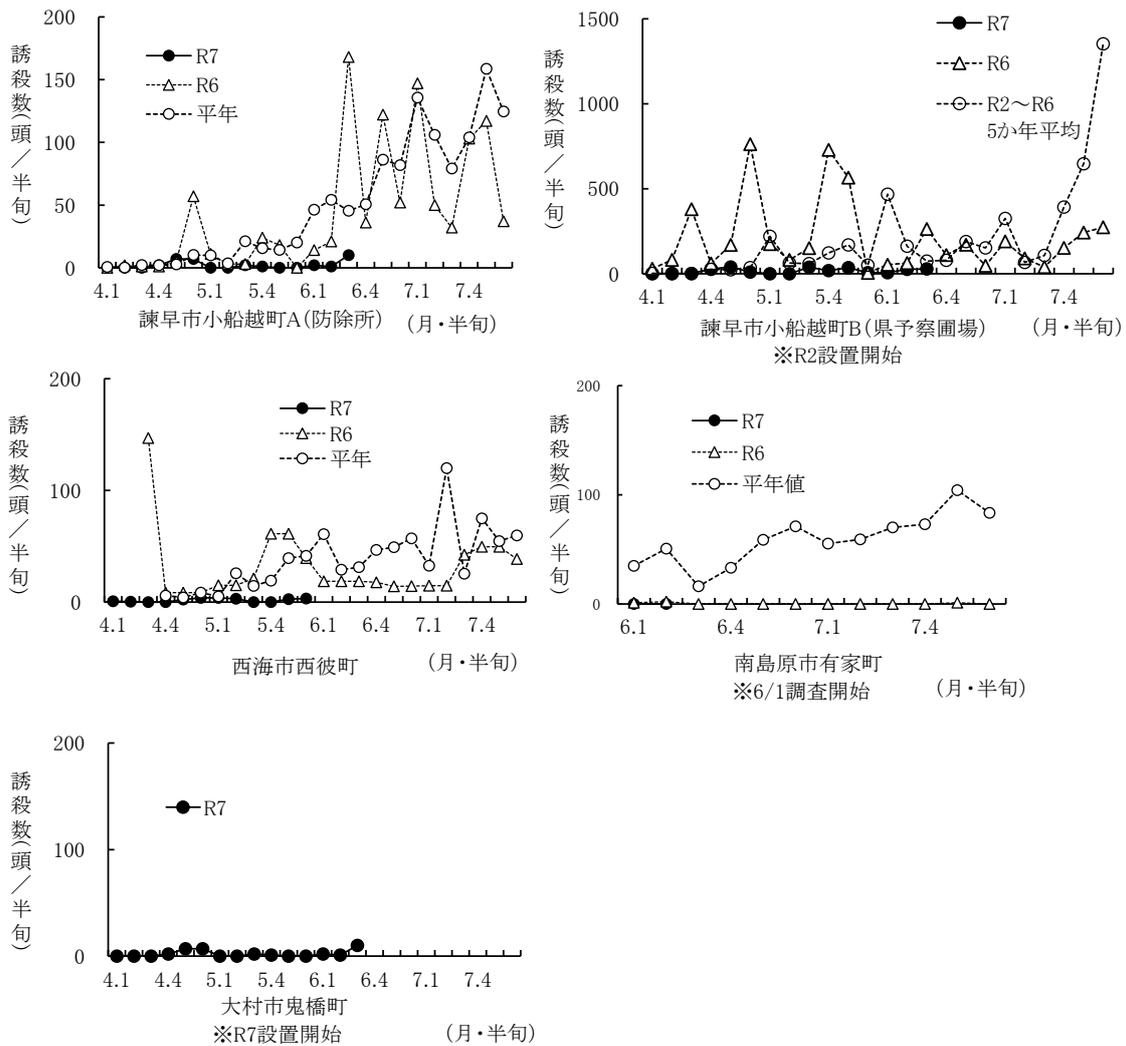


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は3.5枚(2.5枚)、発生圃場率は41.7%(52.9%)であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

- ア 三番茶の萌芽～開葉初期に重点的に防除を行う。
- イ 多発状態の続く園では、せん枝により伝染源を除去する。
- ウ 品種により本病への抵抗性に差があるため、「やぶきた」、「おくみどり」など本病に弱い品種は特に注意する。
- エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統(令和7年長崎県病害虫防除基準P348の「作用機構による分類(FRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は2.3頭(15.9頭)、発生圃場率は58.3%(87.0%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（12筆）の結果、1㎡当たり巻葉数は1.3枚（0.1枚）、発生圃場率は25.0%（8.3%）であった。

イ フェロモントラップ（東彼杵町）調査の結果、5月の越冬世代成虫の誘殺量が多かった（図）。

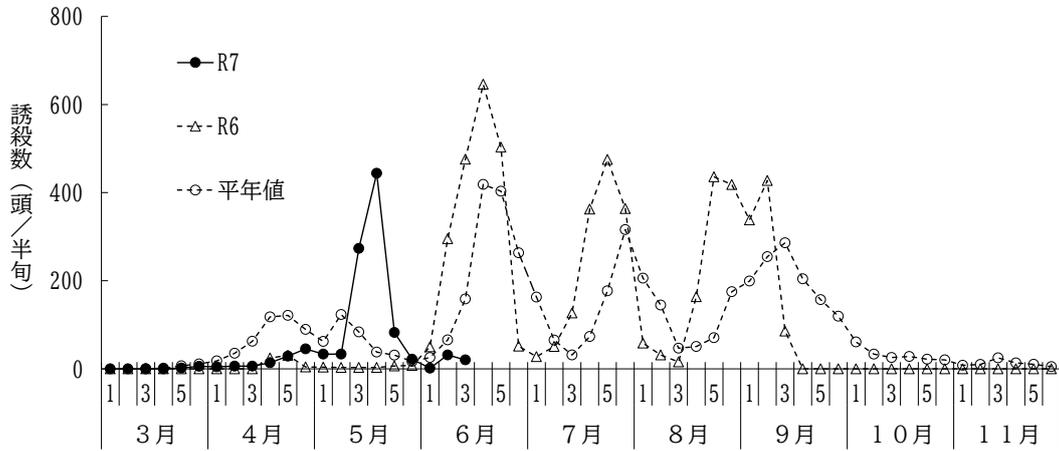


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵町：フェロモントラップ）
※茶業研究室調べ (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除適期の目安は、脱皮阻害剤（IGR剤）は発蛾最盛期の頃、その他の薬剤は発蛾最盛期の約7～10日後である。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病虫害防除基準 P349～350の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

4. チャノホソガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.2枚、発生圃場率12.4%）。

イ フェロモントラップ（東彼杵町）による誘殺量は、平年並で推移している（図）。

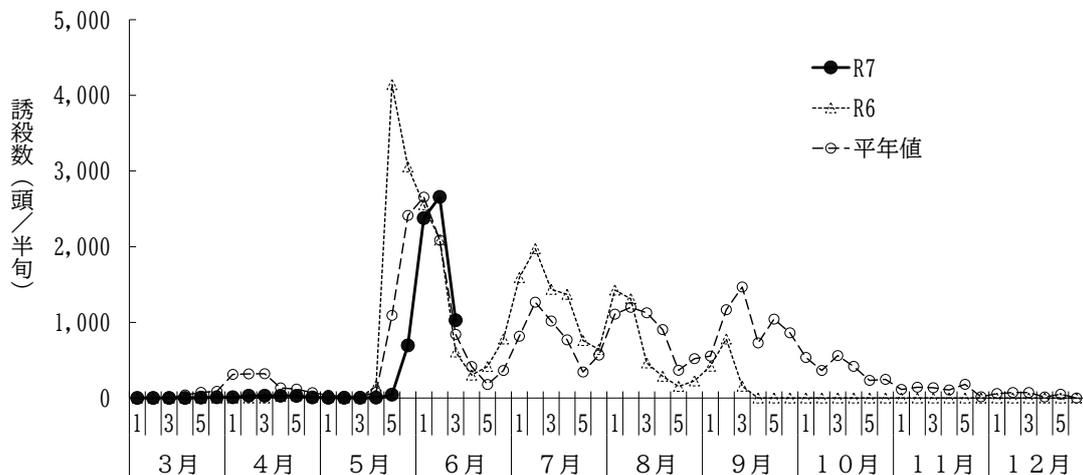


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵町：フェロモントラップ） (月・半旬)
※茶業研究室調べ

5. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は1.3%（3.8%）、発生圃場率は33.3%（34.1%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準 P349～350の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は3.8頭（6.8頭）、発生圃場率は91.7%（78.7%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 三番茶の萌芽～開葉初期に重点的に防除を行う。

イ 中切り等の更新園、摘採中止園、幼木園などでは、茶芽生育期間が長いことため被害が継続し、樹勢へ及ぼす影響が大きいことから、特に注意する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準 P349～350の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生株率は1.7%（5.0%）、発生圃場率は16.7%（38.3%）であった。

